

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第625号 平成25年10月11日

## 命を懸けた勇気（1）

先日（10月7日）、横浜市緑区中山町のJR横浜線の川和踏切で、うずくまっていた74歳の男性を助けようとて電車にはねられ亡くなった村田奈津恵さん（40歳）の葬儀・告別式が行われました。

人を救おうとする勇気の代償としては、余りにも大きな犠牲となりました。

残されたご両親、特に、目の前で娘を失った父恵弘さん（67歳）の思いは如何ばかりでしょうか。

「助けた人が無事というのが、せめてもの救いだが、私より先に死んでほしくなかった」これは恵弘さんの言葉ですが、気丈に振る舞っている彼の姿を見ると、切なくて胸塞がれる思いがします。

事故が起きた現場は、遮断機と警報機のある踏切で、当時、列車が通過する為遮断機が下りていました。奈津恵さんは恵弘さんが運転する乗用車の助手席に乗り、車列の先頭で踏切が開くのを待っていた時に、踏切の中で動けなくなっている男性を見つけ、父親の制止を振り切って車を降り、遮断機をくぐって踏切の中に入り男性を救出しようとしたとの事です。

恵弘さんのお話によると、娘奈津恵さんは普段から面倒見のよい性格で、困っている人を見掛けたらほって置けない質だったという事です。今回の彼女の行動は衝動的にも見えますが、彼女にしてみればこれ迄と同じように振る舞ったのであり、困っている人を助けたいという気持ちに体が自然に反応したのかも知れません。

それにしても、奈津恵さんは「男性を助けなきゃ」と思った瞬間、迫りくる危険に思いが至らなかったのでしょうか？ それとも、危険を承知の上で救出の可能性を信じて飛び込んだのでしょうか？ その瞬間の彼女の心中を推し量ることは出来ませんが、「男性を助けなきゃ」という思いが何ものにも優先したのであろう事は確かです。

今回の奈津恵さんの行為に対して、通夜が行われた斎場に菅官房長官が訪れ、「勇気ある行為を心からたたえる」との安倍総理からの感謝状を遺族に贈呈していますが、自分の命を顧みず男性を助けようとした奈津恵さんの勇気ある行動に、感動した人や勇気づけられた人は多いと思います。

勿論私もその一人ですが、ただ、私は、奈津恵さんの行為を勇気ある行動と讃え、美談で終わらせてしまってはならないと、彼女の死が無駄になってしまうような事

になるのではないかと恐れます。

私達は、今回の彼女の勇気ある行為から学ぶべき事は、沢山あるのではないのでしょうか。

遮断機の下りた踏切に、高齢の男性が線路の上で倒れ込み動けなくなっているのを目撃すれば、それが緊急事態だと誰しも想像がつくと思います。では、どれ程の人が、遮断機の下りた踏切内に入って救出しようとするのでしょうか。

恐らく殆どの方は、ただ茫然となすすべがない状況に陥るのではないかとされます。重大な危険が差し迫っている時に、それを押して危険な中に飛び込んで行くのは、相当の勇気と決断力がなければ難しいと思います。

「助けなきゃ」「助けてあげたい」と幾ら心の中で叫んでも、行動に移さない限り助けることは出来ません。だから、人を助けるというのは、口でいう程簡単な事ではありません。(塾頭：吉田 洋一)